

第4期中期目標・ 中期計画期間における 工学研究院の歩み



工学研究院長 梅澤 修

2022年を迎え、新型コロナウイルスのオミクロン変異株による感染拡大、ロシア軍によるウクライナ侵攻と、先行き不透明な状況が続いています。その一方で、大学キャンパスは本来の姿を取り戻しつつあります。社会活動や国際活動も緩和されつつあり、社会ルール遵守と感染拡大防止に留意しながら、大学生生活や活動の制約がなくなることを祈っております。

本年度は第4期中期目標・中期計画期間の初年度となります。「知の統合型大学として世界水準の研究大学を目指す」を実現するべく、工学研究院・理工学府がその先頭に立って実践的研究の拠点へと一歩一歩前進してまいります。評価指標をもとにした分類によれば、工学研究院には、主に、論文執筆、外部資金と産学連携、女性教員と女子学生支援に係わる取組が課されています。さらに、工学研究院としても、基本目標である“[実践性][先進性][開放性][国際性]の涵養をスパイラルに駆動して、世界水準の教育研究を推進する”を掲げ、(1) 研究目標・成果の国際発信とイノベーションの創出、(2) 連携・支援プログラム強化による博士課程後期学生および大学院留学生の研究力向上、(3) 教育・研究活動コンテンツのDXと研究者の多様性拡大、(4) 研究拠点機能を有する連携プラットフォームの形成、といった計画達成に向けた取り組みを進めます。それらが(1) 教育研究活動の水準と国際的認知度の向上、(2) 他機関との連携強化、世界水準の教育研究推進と実践的人材育成強化に向けた正のスパイラルへ、(3) 教育・研究活動水準の向上と研究者の国際化、(4) 共同研究と研究拠点機能の基盤整備と多様な連携活動の活性化、といった成果を導けるよう努力いたします所存です。

また、昨年度、理工学部と歩調を合わせ、理工学府運営諮問会議を設置しました。学外有識者から理工学府教育の取り組みや教育戦略について助言や提言をいただき、社会からの評価や問題点の明確化を踏まえ、教育改善に資することを意図しております。今年度は、理工学府における教育改善と第4期中期目標・中期計画における取り組みを説明し、更なる助言や提言を教育改善に結びつけて参ります。

学生の研究活動、留学生の渡日、国際交流などは拡大の動きにあります。しかし、世界情勢の不安定は、様々な形で我々の生活や経済活動への影響として顕在化しており、政治的・社会的・心理学的対立の危険性を知ること、人々の危機感を扇動する指導者に対する冷静な目を持つこと、社会の精神的連帯や相互信頼による自制という地道な作業の重要性について、改めて学生とともに考え、適切な判断が必要です。予見される令和時代の「ものづくり」に対して中心的・先導的に貢献できる人材やイノベーションの創出を担う人材の育成につながるよう、「名教自然」の理念のもと培われた伝統を大切に、工学研究院・理工学府の教職員一同、努めてまいります。

2021-2022
Highlights

工学研究院／工学府／理工学府／理工学部